

教育現場の皆さんと語る

かしこく心豊かで健やかな、郷土狭山を愛する 心を持った「さやまっ子」を育てるために

〔出席者〕

- 柏原中学校教務主任 稲葉 正さん
- 南小学校主幹教諭・教務主任 紫竹理枝子さん
- 学校支援ボランティア 大石 和生さん
- さやまっ子相談員 山下久美子さん



未来を担う子ども達が健やかで

元気に過ごすことができる社会

市長 明けましておめでとございませう。平成25年の新春を、ご家族おそろいでお迎えのことと思います。私は市長就任以来、未来を担う子ども達が健やかに、そして元気によく過ごすことができる社会をつくっていきたくと常々考えていました。そのような中で、今回は見



仲川狭山市長

童・生徒に直接向き合っている皆さんにお集まりいただき、それぞれの立場から、ご意見やご感想を伺えればと思っております。まず、皆さんが教師になったきっかけやボランティアを始めた動機などをお聞かせください。**稲葉** 子どものころに先生方のおかげで、楽しく学校生活を送らせていただき、自分もそんな仕事をしてみたいと考えるようになって、中学校の教師になりました。学校では数学を教えています。数学の楽しさ、美しさなどを生徒に伝えていくことができればと思っております。部活動は、野球部の顧問をしています。



稲葉 正さん

私も、これまでたくさんのお世話になって今があります。人との出会い、かかわりを大切に、いつも笑顔で、何事にも楽しんで取り組もうと心がけています。**大石** 4年前、妻からSSCC(狭山シニア・コミュニティ・カレッジ)のパンフレットを渡され、背中

を押されるように英会話中級学科に入学しました。クラスメートと充実した学習や交流ができて、大変よかったです。その卒業に際し、SSVC(学校支援ボランティアセンター)の方から学校支援の仕事が勧められ、登録したことがボランティアを始めたきっかけです。現在、東中学校で、英語の授業支援をしています。**山下** 平成8年に狭山市に来たときに、教師時代の恩師から「さやまっ子相談員」にならないかと勧められて始めました。今は、人間・入間川中学校で活動しています。相談室は、悩みを持った生徒や保護者が訪れるので、リラクセスできる雰囲気をつくること、少しでも役に立ちたいという思いで、耳と心をしっかり傾けて、話を聞くことを心がけています。

市長 教育現場で子どもと触れ合い指導する中で、最近の子どもの傾向や、自分の子ども時代と比較して何か変わったと感じていることはありますか。**稲葉** 子どもとしての明るさやすなおさというのは、今も変わらずにみんな持っていると思います。変わった点では、情報化社会にあつて、IT機器などの分野に関しては、教師以上の知識を持っている子どももいます。そこは本当に昔と違う点だと感じます。あと、部活動で感じるのですが、私が子どものころは、しかられても次は頑張るぞというところが全体的にあつたんですが、今は、しかられるとしょぼんとしてしまうような子どもにはいます。



大石 和生さん

稲葉 子どもが本来持っている興味のあることに一生懸命向かつていく力は、変わっていません。ただ、最近の子どもは「外に出よう」と言わないと校庭へ出なかつ



紫竹理枝子さん

たり、教師が何かを企画しないと自分からやらない傾向があります。また、人あまり興味のない子どもが増えている、それが原因で、自己中心的と言われたり、すぐに気持ち折れてしまつたりするのはないでしょうか。人に興味を持つことができれば、少し違った気持ちも芽生えてくると思います。**大石** 全般的に、今の子ども達は積極性が高いと思います。授業で先生が質問すると、生徒が手を挙げますよね。すると、自分を指せというように、アイ・マイ・ミーのミーですね、「ミー」「ミー」と言つたり、立ち上がつて「こつち、こつち」と言つたりするんです。中には、周りの友だちへの配慮を欠いて、自己主張に走つてしまつたり、立ち上がつて「こつち、こつち」と言つたりするんです。

市長 いい意味での元気をもち続けてくれるといいですね。**大石** 私も、彼らの元気な笑顔と声が届みになっています。

最近の子どもの傾向

教育現場の課題と解決への取り組み

山下 みんな礼儀正しくあいさつをしてくれて、学校へ行くところが元気をもらえるようなフレンドリーな雰囲気があります。昔の子は、少し恥ずかしがったりするところがありました。今の子は明るく私たちを迎えてくれます。学校現場にさまざまな立場の方が入つて、学校が開けてきているからかなという気がしています。**市長** 私は、朝歩いてくるんですが、子ども達にあいさつをすると、小学生より中学生のほうがよくあいさつを返してくれます。通学班の中よりも1人のほうがあいさつしやすいのかもしれないですね。



山下久美子さん

山下 人間関係では、昔と比べて人との距離感をうまくとれない子が増えているようです。好きだとべつたりくつつき、嫌いだと全く拒否という感じで、適度な距離感がとれずに、それで苦しんでいる子が多いように感じます。

市長 皆さんは、子どもの成長を間近に見ながら、多くのやりがいや難しさを感じていると思います。が、課題として感じていること、それらの課題の解決に取り組んでいく事例などをお聞かせください。**稲葉** 学校には、勉強だけでなく、いじめ問題への対応も求められています。小さなトラブルでも早く察知して、その根を断つ。いじめは、絶対にあつてはいけないという強い気持ちを持って取り組んでいます。その防止には、道徳教育や行

事などを通して人としての思いやりを育てていくことが必要と考えていて、お互いを認め合えるような活動を進めていくことが大事だと思つています。**大石** 私が活動している東中学校では、校長先生が校内巡視をして、先生方が情報を共有して、何かあつたときに、瞬時に対応しているので、いじめの未然防止に細心の注意が払われているんだと感じています。